



●インフォメーション

2月12日(火)の午前中は診療します。

2月11日(月曜日)が建国記念日で祝日ですので、次の日の2月12日(火曜日)の午前中は診療いたします。連休中の急な体調の悪化でお困りの方は是非ご利用ください。簡単な迅速診断は可能ですし、門前薬局をはじめ市中の薬局は火曜日で営業しておりますので、院外処方が可能です。インターネット予約もできるようにします。ただし、スタッフはお休みですので、食物アレルギー負荷試験、乳児検診、ワクチン、静脈血採血検査、輸液療法はできませんのでご注意ください。



●編集後記

去年もこの話題を書いたかも・・・2月の第1日曜日はスーパーサンデー。これ、アメリカンフットボールリーグ、NFLの世界一決定戦「スーパーボウル」の日です。今年は2月3日(日本時間、4日曜午前)。多くのアメリカ人にとってサンクスギビングディと同じくらい重要な日なのですが、実は自分にとってもそうなのです。とにかくアメフトはどこをとっても世界最高のスポーツ、さすが娯楽大国アメリカ人に愛されているスポーツです。という私も、20年前に渡米して、地元のニューイングランド・ペイトリオッツのとりこになるまでは、多くの日本人と同じように野球かサッカー、相撲くらいしか興味なかったのです。ラボを抜け出してこっそりダウントウンに優勝パレード見に行ったのを昨日のように覚えています。そのわがペイトリオッツですが、なんと3年連続スーパーボウル出場！昨年は、楽勝かとおもわれたフィラデルフィア・イーグルスに最後まで追いつけず、大変悔しい思いをしました。今年は2002年、私がボストンにいたとき、スーパーボウルで対戦したLA・ラムズとの再戦となりました。場所はアトランタ、メルセデス・ベンツ スタジアム。観戦したいのはやまやまですが・・・2月4日曜日に情報を完全にシャットアウトして、夜ゆっくりゲームパスでみます。Go Pats!

受付時間	月	火	水	木	金	土
9時～12時	●	—	●	●	●	●
14時～18時	●	—	●	●	●	●

休診日／火曜・日祝日

9時より早く来られた方も、診療準備完了次第、順次診療してます。また夕方方も6時ぎりぎりまで受付しております。お気軽に相談ください。

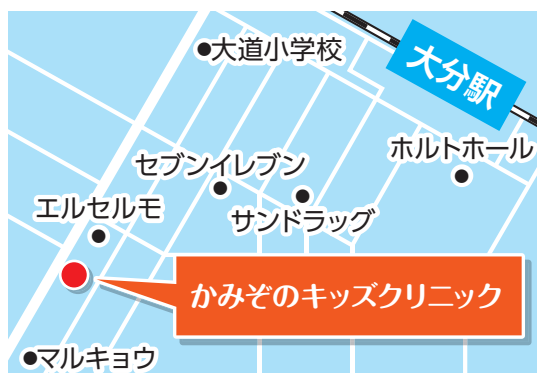
インターネット予約が可能です

かみぞのキッズ よやく | Q

<http://kamizono-kids.com>

〒870-0822

大分県大分市大道町4-5-27 第5ブンゴヤビル2F



ホームページ
QRコードは
こちら



WEB予約
QRコードは
こちら



TEL:097-529-8833

children's clinic of Kamizono



かみぞのキッズクリニック

シックキッズニュース

2019年2月号(No.21)

2月、といえば、スギ花粉症。いまや日本国民の4人に1人がスギ花粉症に悩まされているほど広がってしまった国民病となりました。昨年暮れに、医学・医療に関する情報を医師向けの週刊医学新聞と医師会会員登録制ウェブサイトが発信している「メディカルトリビューン」という情報誌で花粉症の特集がありました。最新の飛散予測情報、薬物療法、舌下療法のポイント、花粉症対策製品のトレンドと盛りだくさんで情報発信していましたので、ご紹介します。

●今月のフォーカス メディカルトリビューンの特集「スギ花粉症」から

1 全国各地の最新の飛散予測

スギ花粉の飛散量は、スギの雄花の生着が多ければ多いほど増えるといわれています。スギ雄花は夏に生着し、晴れて暑い夏になるほど多くなる傾向があります。昨年夏の気象条件と、昨年秋のスギ雄花の調査を踏まえ、分析予想した結果、東北部を除く多くの地域で、過去10年の平均飛散量(10年平均)より多くなる見込みとなりました。去年の夏は梅雨明けが早く、太平洋高気圧とチベット高気圧の張り出しが強まり、上空で2つの高気圧が重なる“ダブル高気圧”の影響で、全国的に記録的な猛暑となりました。日照時間も長く、雄花の生育に適した天候だったといえます。また、昨年がスギの花粉の飛散量が減少した“裏年”でした。スギの花粉量は隔年で増減する傾向があり、裏年の次は、スギの飛散量が増える“表年”になる傾向があります。今年は“表年”となるので、花粉の飛散量が増えることが予想されました。



2 飛散の開始時期は、おおむね例年なみ

スギの雄花が休眠期に入る11～12月と、休眠から覚醒し開花準備に入る1～2月の気温予想し検討した結果、全国的に例年並みと予想されました。大分では全国に先駆けて2月第2週あたりではないかと予想されています。

3 大分の飛散予想はどうか？

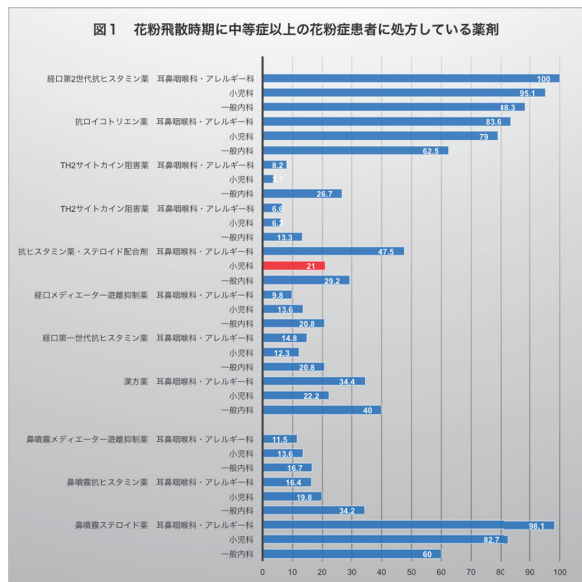
九州でも昨年の夏は軒並みの猛暑。例えば大分でもスギの有名な生産地、日田地方は記録的な猛暑でした。そういうこともあり、大分ではスギの雄花数が、10年平均の約2倍になってしまいました。一方福岡のスギ雄花数は約半分と、著名な地域差が出たそうです。いずれにしろ、大分県民は、今年はスギ花粉の大量暴露を覚悟せねばなりません。大分での飛散時期は例年通り2月10日ごろではないかと予想されています。

中面につづきます ➡



4 スギ花粉症の薬物療法の実際はどうなっているのか？ステロイド配合薬や点眼薬の安易な使用が問題

メディカルトリビューンの花粉症治療をしている耳鼻科、小児科、アレルギー科、一般内科の医師会員262人のアンケートの結果、どの診療科でも、経口薬の第二世代の抗ヒスタミン薬、抗ロイコトリエン薬、鼻噴霧薬のステロイド薬の割合が高くなりました。しかし、大きな問題点が浮き彫りとなりました。経口薬の抗ヒスタミン・ステロイド配合薬（セレスタミン配合剤など）の処方の割合が、小児科でも20%を超えているという、大変驚くべき問題がありました（図1）。抗ヒスタミン・ステロイド配合薬の経口連用は様々な副作用のリスクがありますので、適正使用を心がける必要があると指摘されています。また、もう一つの問題は、ステロイド点眼薬の、眼科医以外の安易な処方も問題視されています（表1）。ステロイド点眼薬には、失明も危惧されるステロイド緑内障の発症が、特に子供に起きることがあるにもかかわらず、眼圧測定ができない37%の小児科医が処方していることが判明しました。ステロイド点眼薬の代表薬のフルオロメトロンには濃度が異なる0.02%と0.1%の2種類がありますが、0.02%では効果が見られないからといって、0.1%の高濃度への切り替えを検討しようとしている小児科医もいたそうです。一度ステロイド点眼薬を処方してしまうと、他の安全な点眼薬でそれ以上の効果を実感できる人が少なく、ずるずると使い続けてしまうケースが少なからずありますので、ステロイド点眼薬の頻用に頼るやり方はやめる、最低でも眼圧がはかれる眼科医による処方にとどめたいものです。



	抗アレルギー点眼薬	抗ヒスタミン薬	ステロイド点眼薬	第2世代抗ヒスタミン薬
耳鼻咽喉科・アレルギー科	23.0	65.6	39.3	4.9
小児科	29.6	67.9	37.0	1.2
一般内科	26.7	53.3	25.0	5.8

（単位：％）

5 4月から発売される世界初の経皮吸収型貼付剤“アレサガテープ”について

4月24日から、久光製薬から“アレサガテープ”という1日1枚体に貼るアレルギー性鼻炎の治療薬が保険で使用できるようになります。利点としては、①飲めない人にも使用できる、②血中への移行がよく速やかに血中濃度が上がり、かつ一定期間保たれるという特徴があり、かゆみなどの局所的なものを除いて副作用が出にくく、オンデマンド（症状が出て使用したいときに使用する）で使用できる、③使用しているのが一目でわかる（つまり貼り忘れが少なくなる）という点です。四半世紀から発売されていたレミカットという第二世代の抗ヒスタミン薬の錠剤の抗アレルギー剤のテープ版です。喘息や

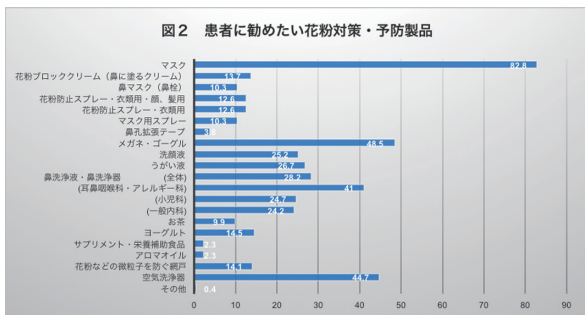
気管支炎のこどもさんに使う“ホクナリンテープ”と同じようなものです。ところが一方、①いまのところ成人のみ、②眠気を催すことがあるので、使用中の患者には自動車運転などの危険を伴う機械操作には従事させないように中止し説明すること、と添付書に書かれています。小児科の分野では、中学生以上でのオンデマンドの使用にとどまることになるのでしょうか。小児は自動車運転をすることがないため、早く小児での使用承認が待たれるところです（表1）。

6 花粉症への対策方法や対策製品について（図2）

医師が花粉症患者さんへ勧めたい花粉対策・予防製品は、やはりマスクが圧倒的に多く82.8%の回答者が進めていました。また、メガネ・ゴーグルが48.5%と予想通り進められていました。耳鼻科やアレルギー科では、鼻洗浄液・鼻洗浄器も41.0%と高くなっています。中学生以上であればできるかもしれませんが、それ以下だとなかなか嫌がってできないかもしれません。保険も効きませんが、いろいろなところからいろいろなものが出ていますので、もし興味がある方はご相談ください。また耳鼻科・アレルギー科は、ヨーグルトを選択している割合が27.9%と高いのですが、花粉症が出た後はなかなか改善させるのは難しいというのが実情です。

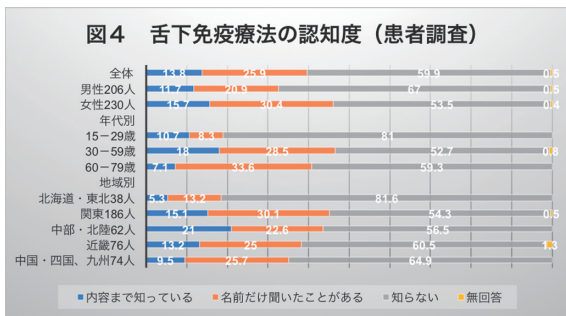
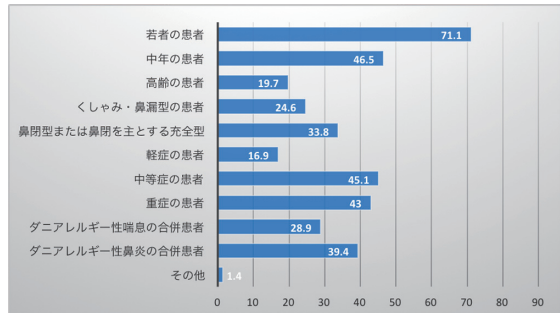
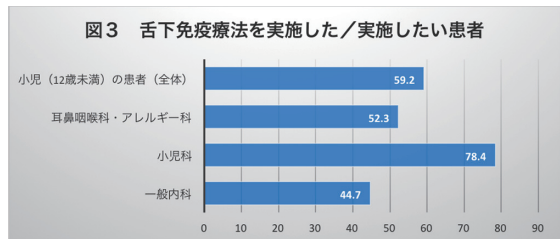
患者さんへの調査では、花粉対策として「洗濯物を部屋干しに」が34.4%と多く、対策製品として「部屋干し専用の洗剤」を購入した割合が17.4%と年々3割から8割増の勢いで増えています。各洗剤メーカーが、生乾きのにおいが気にならない部屋干し用洗剤を開発して、

盛んに宣伝していることもあり、部屋干しは患者さんの間で浸透してきた感があります。空気洗浄器や微粒子の侵入を防ぐ網戸など、新たな対策製品も開発されており、今後、患者さんの花粉対策に影響を及ぼすだろうと結ばれています。



7 スギ花粉の舌下療法（SLITスリット）について、対象はより低年齢化へ

スギの舌下免疫療法についての医療機関へのアンケートについても言及されています。12歳未満の小児に実施した、もしくは実施したいと回答したのは、小児科で78.4%と、前回調査の22.2%から著明に上昇しています。耳鼻科・アレルギー科でも16.1%から52.3%、一般内科でも6.7%から44.7%と同様に大幅に上昇しています（図3）。



コラム：当院でのスギ花粉やダニの免疫療法の実際

症状があるときだけ抗ヒスタミン剤を飲むという従来のやり方では、アレルギー疾患は根治できません。アレルギー専門医は当然アレルギー疾患の根治を目指さないと意味がないと考えています。大分では残念ながら子供に関しては免疫療法をしているところはありませんでした（一部耳鼻科医院の皮下免疫療法を除いて）。

当院は2年前の6月の開院当初から、ダニやスギ花粉の免疫療法を積極的に勧めております。現時点までにスギ花粉舌下液（シグトレン）あるいはスギ花粉舌下免疫療法のシグトレン・シグキアを処方中の患者さんが29名、ダニ舌下錠（ミティキュア）を36名の方に定期処方しています。また、ダニやスギの皮下免疫療法（ダニやスギ花粉の抗原を注射）も25名の方に実施しております。免疫療法には3年ほどかかり（図5）、まだ開院して1年半しかたっていないので、終了した方はいません。皮下免疫療法（注射）のほうは、約3年間60回の注射が必要です。しかし注射代が保険を使えば数十円レベルなので実質料金は再診料だけで、大変経済的です。舌下療法に関して保険を使っても、ひと月にスギ花粉舌下液（シグトレン）で900円、スギ花粉舌下錠（シグキア）で1,100円、ダニ舌下錠が1,900円ほどかかります。それ以外に、最初のほうはどうしても口や耳、目がかゆくなったり違和感がありますので、高価な抗ヒスタミン剤も慣れるまで約数か月間同時服薬していただくことが多いので、余計に薬剤費がかかります。また自宅で行いますので、どうしても途中で

服用を忘れてやめてしまうケースもあります。途中でやめてしまうと体質がすぐに戻ってしまうので、最低3年間は続けてみたほうがいいといわれています。今までやったことが無駄になってしまうということです。

5月から、より使い勝手がよく、評判のいいスギの舌下錠「シグキア」の処方制限がとれ、これまで2週間しか処方できなかったものが、1～2か月とより長期に処方可能となります。しかも舌下液シグトレンは2000JAUが限度で維持なのが、舌下錠シグキアは2.5倍の5000JAUで維持となり、より高い効果が見込めます。まだ免疫機能が成熟していない小児は免疫療法の効果も高いので、今後もより積極的に勧めてゆきたいと考えています。もちろん成人の方、親子での処方も可能です。わかりやすいパンフレットなどの資料も置いておりますので、興味がある方は是非お声かけください。

